

愛川町（神奈川県）

（１）事業実施期間

平成 23 年 1 月 7 日（金）から平成 23 年 1 月 20 日（木）まで

（２）運営スケジュール

貸与期間中、図表-1のようなスケジュールで貸与された燃料電池自動車を活用し、市民等への普及啓発に努めた。

図表-1 運営スケジュール（愛川町）

日程	内容
1月 7日（金）	・車両搬入 ・担当課職員レクチャー（役場庁舎周辺）
9日（日）	・愛川町一周駅伝競走大会で先導 ・一周駅伝競走大会の開催前後で展示（三増陸上競技場）
11日（火）	・住民向け試乗会を実施（役場庁舎周辺） ・移動式水素スタンドによる水素充填を公開
14日（金）	・環境パトロールに使用 （現地確認・水質調査）
17日（月）	・町職員向け試乗会を実施 （役場庁舎周辺）
19日（水）	・事務連絡に使用
20日（木）	・事務連絡に使用 ・車両搬出

(3) 実施内容

期間中に図表-2のような内容で、展示・試乗会を実施し、16名の体験試乗、17名の体験同乗、計33名の乗車体験があった。

図表-2 体験試乗・同乗者の概要（愛川町）

実施日	概要	対象者	試乗者数	同乗者数
1/7	職員レクチャー（運転）	職員	6	—
1/9	愛川町一周駅伝競走大会で先導	住民	—	(イベント動 員数 3,000人)
1/9	一周駅伝競走大会の開催前後で展示 (三増陸上競技場)	住民	—	(来場者 約50人)
1/11	住民向け試乗会	住民	5	12
1/11	移動式水素スタンドによる水素充填を 公開	住民・職員	—	(来場者 約10人)
1/17	町職員向け試乗会を実施	職員	5	5
合 計			16	17

※運転及び同乗ともに体験した者は、運転者数だけにカウントしている。

(4) 事業の周知方法

- 愛川町広報「お茶の間通信」平成22年12月15日発行 第358号
発行部数 12,000部（町内世帯に配布）
- 「お茶の間通信」と同様の内容を町ホームページの町政情報館に掲載
平成22年12月15日から平成23年1月12日
- 地域情報紙「タウンニュース」に掲載 2011年1月7日号
厚木市・愛川町・清川村版 発行部数 69,400部
（厚木市・愛川町・清川村のほぼ全域に新聞折り込み）
- 「タウンニュース」ホームページ版に掲載

編集・発行 愛川町総務部総務課 〒243-0392 神奈川県愛甲郡愛川町角田251-1 電話046(285)2111(代) ファクス046(286)5021

広報あいかわ
お知らせ版

お茶の間通信

平成22年
12月15日発行
第358号

http://www.town.aikawa.kanagawa.jp/

放課後児童クラブ 23年度入所児童を募集

各小学校内にある放課後児童クラブの平成23年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の入所児童を募集します。

- 対象児童 本町に住む小学校1年生から3年生までの児童で、放課後帰宅しても保護者の就労や病気などの理由により、適切な保護が受けられないと認められる各学区内の児童
- 定員 各児童クラブ35人以内
- 開所時間
 - ◎平日(学校休業日を除く月曜～金曜日) 授業終了時～午後6時30分
 - ◎土曜日、長期休業日(春・夏・冬休み)など 午前8時30分～午後6時30分
 - ◎早朝育成(土曜日、長期休業日など) 午前8時～午後8時30分
- 休所日 日曜・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)など
- 保護者負担

育成料	月額 4,000円
おやつ代	月額 2,000円
傷害保険料	年額 1,800円
早朝育成料	日額 100円

- 申請方法 入所申請書、添付書類(就労証明書または療養状況申告書など)、児童個別票に必要事項を記入し、1月4日(火)から21日(金)までに生涯学習課へ提出してください。
※受付時間は平日の午前8時30分から午後5時15分までですが、1月14日(金)は午前8時30分から午後7時まで受け付けます。
※1月15日(土)のみ午前8時30分から正午まで受け付けます。
- 問い合わせ 生涯学習課青少年教育班 ☎(直通)285-6959
※利用案内および入所に必要な書類は生涯学習課で配布します。また、町ホームページからも取り出すことができます。

火の元・火の取り扱いに注意！ 年末年始火災特別警戒 12月25日～1月3日

何かと懐かしい年末年始。この時期は、火を使う機会が増えることに加え、空気が乾燥して火災が発生しやすくなります。火の元、火の取り扱いには十分注意しましょう。

また、住宅用火災警報器を取り付け、恐ろしい火事から尊い命、大切な財産を守りましょう。

- 問い合わせ 消防本部 ☎(直通)285-3131



町内循環バス 12月29日～1月3日 年末年始運休のお知らせ

町内循環バスは、12月29日(水)から1月3日(月)まで運休します。

- 問い合わせ 住民課交通防犯班 ☎(内線)3325

今月の休日納税・相談窓口

12月18日(土)・19日(日)・25日(土)・26日(日)
午前8時30分～午後5時

役場1階税務課で、町県民税・固定資産税・軽自動車税・国民健康保険税・介護保険料・後期高齢者医療保険料が納められます。

こんな電話にご注意ください

息子や警察、金融機関を装う振り込み詐欺事件が多発するなど、電話を介したトラブル、相談が多く寄せられています。最近は複数の業者が登場する「劇場型」など手口が巧妙になっています。

うまい話はありません！ こんな電話にご注意ください。



- 「カニはお好きですか？」
- 「必ずもちりますので、社債・未公開株を買いませんか？」
- 「外国通貨(イラクディナール、スーダンポンド)がもうかりますよ！」

実際は・・・

- ・カニが好きだと答えているうちに買ったことになり、後日カニが送られてきたが、粗悪品でしかも高額だった。
- ・配当12%の社債を買ったが、業者と連絡がつかなくなった。
- ・外国通貨を買ったが、換金不可能で価値がなかった。

言われるままに行動してしまうのではなく、まず、家族など周りの人に相談しましょう。

町では、消費生活相談を行っています。専門の消費生活相談員が相談をお受けします。

毎週月曜・木曜日 午前10時～正午、午後1時～4時

- ◎ 相談日以外の平日は、町職員が相談をお受けします。
- ◎ 土曜・日曜・祝日は、かながわ中央消費生活センターへ ☎045-311-0999
※午前9時30分～午後7時。年末年始はお休みです。

- 問い合わせ 住民課住民相談班 ☎(内線)3319

未来のエコカー 燃料電池自動車が登場！ ～ 体験乗車を開催 ～

燃料電池自動車は、燃料の水素と空気中の酸素を使って発電した電気で走行するため、排気ガスが水蒸気のみであること、また高いエネルギー効率を期待できることから、ハイブリッド自動車や電気自動車に次ぐ「次世代の自動車」として、その普及が期待されています。

町では、普及啓発事業として、燃料電池自動車(使用車両 HONDA FCX クラリティ)の乗車体験を開催します。未来のエコカーを体験してみませんか。

※職員が運転する燃料電池自動車に乗る「乗車体験」です。運転はできません。

- 日 時 1月11日(火) 午後2時～3時
- 会 場 福祉センター前広場
- 参加方法 当日会場で先着順で受け付けます。
- 問い合わせ 環境課 ☎(直通)285-6947

【愛川町一周駅伝競走大会での先導】

1月9日(日)に開催する愛川町一周駅伝競走大会で、選手を先導する車両として「燃料電池自動車」を使用します！沿道での応援の際には、この先導車にも注目してください。

今月の納税・納付期限

固定資産税(第3期分)、国民健康保険税(第7期分)、介護保険料(第7期分)、後期高齢者医療保険料(第6期分)

納期限は12月27日(月)

※後期高齢者医療保険料は1月4日(火)

安全・確実・便利窓口座振替で

役場本庁の開庁日・開庁時間は 土曜・日曜・祝日を除く午前8時30分から午後5時15分まで

(5) 利用の様子

- 平成23年1月9日(日)午前10時から午後0時まで
愛川町一周駅伝競走大会で先導車として利用
走行距離26km 陸上競技場・沿道での応援者等に啓発(約3,000人)



- 平成23年1月9日(日)午後0時から午後2時まで
愛川町一周駅伝競走大会終了後、表彰式終了まで陸上競技場内で展示実施。
来場者 約50名



○平成23年1月11日（火）午後2時から午後3時まで
体験乗車を役場庁舎周辺で実施。来場者17名



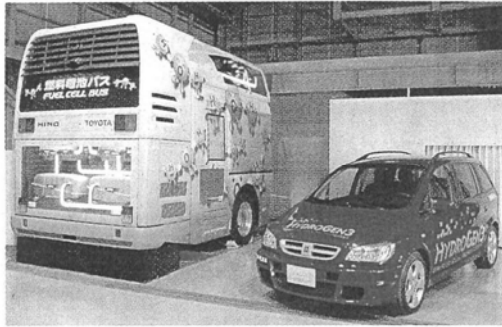
○平成23年1月11日（火）午後3時から午後5時まで
文化会館駐車場で実施した移動式水素スタンドによる水素充填を公開。

(6) 報道実績等

○「ガスエネルギー新聞」平成23年1月26日号に掲載
発行部数 31,000部（日本全域・一部海外に配布）

2011年(平成23年) 1月26日

(毎週水曜日発行・週刊)



あいち臨空新エネ実証研究エリアの展示車両

二酸化炭素(CO₂)の大幅削減に向け、自動車市場にはプラグインハイブリッド車や電気自動車などが投入されているが、13社による共同声明はさらなる選択肢の一つである燃料電池車で次世代車の拡大を一層加速する狙いがある。08年度の日本のCO₂排出量12億8000万トのうち自動車部門の排出は2億トと全体の16%を占める。燃料電池車の実用化で低炭素化を一層進めるとともに、世界に先駆けて本格的な普及市場を構築することによって国際競争力の強化

燃料電池車

2015年実用化へ 定期バス運行、インフラも

燃料電池車の2015年の本格実用化に向けた動きが活発化している。12月16日、東京都心と羽田空港の間で高速道路を使った世界初の燃料電池車の定期運行が開始されたのに続き、1月13日には燃料電池車関連の13社による「国内市場導入と水素供給インフラ整備に関する共同声明」が発表された。燃料電池車の普及・啓発イベントも相次いで催されており、燃料電池車や水素に対する消費者の理解も一気に進んでいる。

と雇用創出も図る考えだ。

共同声明は15年までに水素ステーションを100カ所設置する目標を掲げた。共同声明に名を連ねた東京ガス、大阪ガス、東邦ガス、西部ガスの都市ガス大手も水素供給インフラ整備に向けた取り組みを進めている。東京ガスは昨年12月、大田区京浜島に「羽田水素ステーション」を設置。豊田市と民間企業による低炭素実証プロジェクトに参加する東邦ガスもプロジェクトの一環として水素ステーションを13年

に設置する計画を打ち出している。

イベントも続々
インフラ整備が進む
燃料電池車の普及・啓発を目的とした活動も

活発だ。愛知県が運営する新エネルギー関連の研究施設「あいち臨空新エネルギー実証研究エリア(常滑市)」は15日、燃料電池車の展示を始めた。新エネ体験館内に展示されたのはゼネラルモーターズ・ジャパン(古井澄人代表取締役)から燃料電池車の啓発目的で無償貸与された燃料電池車「ハイドロジェン3」とトヨタ自動車・豊田章男社長から無償貸与された燃料電池車の2台。年間約1万人の来場者に

次世代車の仕組みを紹介する。担当者は「革新的な技術の認知度向上に努めたい」と話す。展示は13年3月末までの予定。本田技研工業(伊東孝伸社長)は16日、Hondaの先遣技術を紹介する。daウエルカンプラザ青山(東京都港区)で今年最初の「Hondaの燃料電池電気自動車教室」を開いた。4組の親子計10人が参加し、ホンダの燃料電池電気自動車「FCXクラリティ」の開発技術者監修の紙芝居「FCXクラリティの冒険」を上演し、乗

った講義や、燃料電池車を使った実験キットを使った実験などを楽しんだ。ホンダがこの教室をスタートさせたのは07年1月。昨年までに42回開催し、計319組の親子が参加。今年も10回の教室を開き、燃料電池車の先進技術を紹介する。11日、神奈川県北部の愛川町(山田登夫町長)ではFCXクラリティの体験乗車会が開かれた。町内外から16人の希望者が参加、町職員が運転する次世代車に同乗し、乗

り心地を体験した。今回のイベントは環境省の燃料電池自動車普及推進事業の一環として、燃料電池車を週間借り受けて実施。町は9日に開催した愛川町一周駅伝競走大会でも燃料電池車を先導車として利用。開会式会場の陸上競技場に燃料電池車を展示し、大勢の見学者を紹介した。環境省によると、今年度は広島市や島原市など、8つの地方自治体が同事業を通して燃料電池車の啓発活動を行っている。

(7) 町職員による燃料電池自動車と電気自動車・ハイブリッド車との比較について

町の公用車として導入している電気自動車・ハイブリッド車と比較した、燃料電池自動車の特徴・利便性についての町職員の主な意見は下記のとおりである。

○燃料電池自動車が優れていると感じた点

- ・電気自動車と比較して充電の手間がない。
- ・ガソリン車・ハイブリッド車と比較して遜色なく利用できる。
- ・電気自動車より走行距離が長く、安心して長距離の走行が可能である。
- ・化石燃料も使用するハイブリッド車と比較して、走行時には水しか排出しないなど環境への貢献度が高い。

○燃料電池自動車が劣ると感じた点

- ・電気自動車の急速充電器の作業は、一般の人にも比較的簡単に行えるのに対して、水素の充填は一般の人には扱いにくい。
- ・水素残量のメータ表示が不安定なのか、急速に減ってしまい不安がある。
- ・燃料が水素であり安全面に不安がある。